う つ ろ う 「 浅 草 」

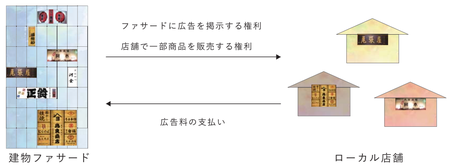
「浅草」が映りこむスクリーン　と　日時計がつくりだす「浅草」

電波塔の役割を果たすスカイツリーは観光名所となっている一方で、浅草は下町ならではの人の繋がりやローカルな店舗が多く残っている。そこで、古き良き浅草の魅力を活かし発信するローカル店舗の分店や外国人向け宿泊施設と共に、電波塔「スカイツリー」に対し自然エネルギーの普及に努める展示場を計画する。「浅草」の持つ空気感までもを設計に取りこみ、新たな観光像をつくることを目指した。

「浅草」が映りこむスクリーン　- 文化を継承し、町と一体となる空間構成と運営の仕組み -

■文化を継承するファサードと広場

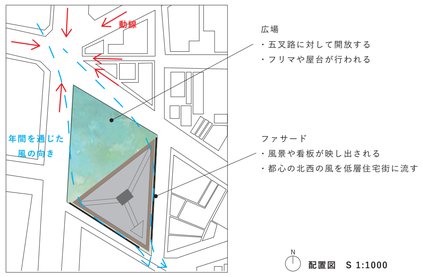
かつて浅草には時代を先駆ける映画館や情緒漂う蚤の市があり、この風景を受け継ぐことを考えた。映画館に代わりガラスファサードには浅草の四季折々の風景やローカル店舗の看板が映し出され、また、蚤の市に代わり五叉路に対して開放された広場ではフリーマーケットや屋台が行われる。



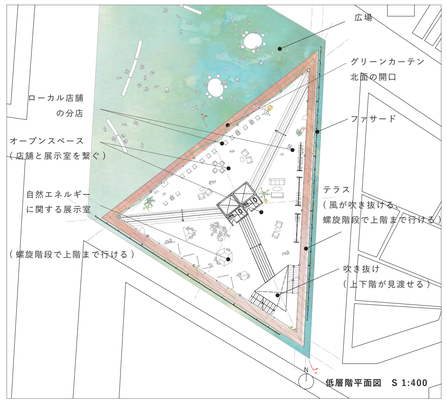
ローカル店舗経営者との関係

■情緒豊かな「浅草」と自然エネルギーが融合する空間構成

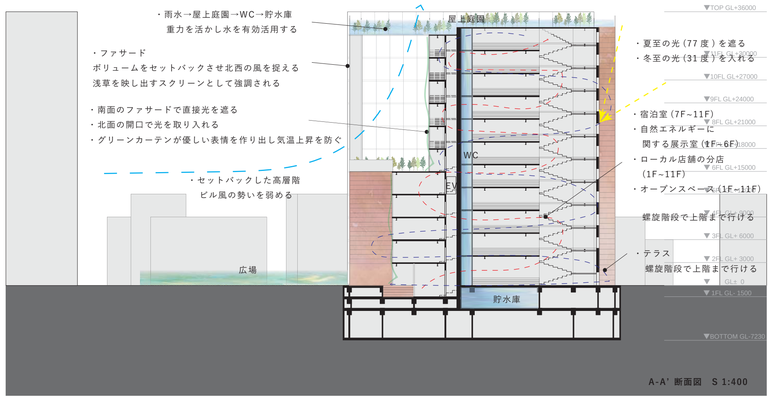
建物内部にはローカル店舗の分店・外国人向け宿泊施設、自然エネルギー関係の展示場が入り込む。建物を廻るだけで楽しめるよう二重螺旋構造で空間は構成される。



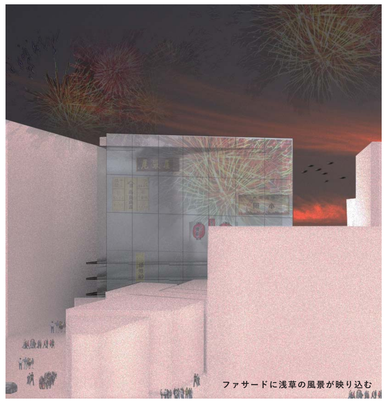
配置図　S 1:1000



低層階平面図　S 1:400



A-A' 断面図　S 1:400

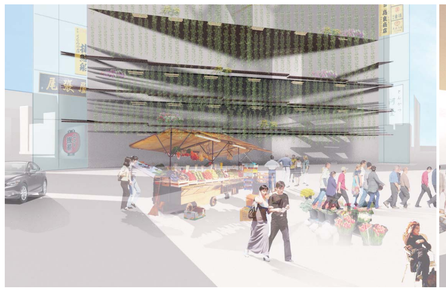


ファサードに浅草の風景が映り込む

日時計がつくりだす「浅草」　- 日影がつくりだす広場と内部空間のデザイン（例：7 月 21 日（夏至の日））-

■うつろう広場のアクティビティ

建物のつくる日影に合わせて人々は自由に空間を選択する



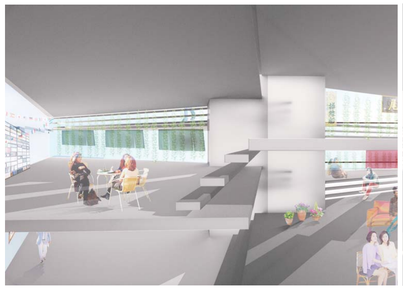
7:00 AM
出勤途中の人や主婦が朝市を利用する

3:30 PM
放課後に小学生が古本市に参加する

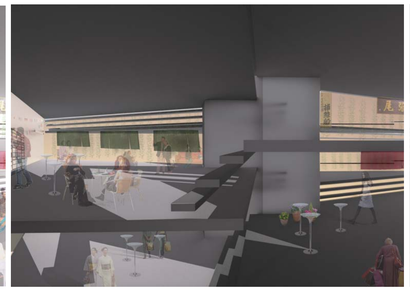
10:00 PM
日本舞踊やアートと共にお酒を楽しみ人々は交流を深める

■うつろう内部のアクティビティ

コアを中心とし日影に合わせて人々は自由に空間を選択する、吹き抜け・ガラスファサード・床と天井のステンレス板によって内外が連続した空間になる



7:00 AM
朝日を浴びながら地元の喫茶店の朝食をとる



6:00 PM
夕日を楽しみながらディナーをとる、観光客が展示室を訪れる

10:00 PM
宿泊者は店の店員と交流を深める